日本文化の重層性

レー　ホアイ　フオン

日本文化の重層性

日本文化は、外来文化と土着文化との重層性で成り立っている。

日本は、中国から漢字を借りて、表語文字を使っている。しかし、和語の発音を表す表音文字を作り出した。和語は、中国語とは全く別の言語である。

日本の食生活は、中国や西洋と違って、米を主食とする。米は、農耕文化の中心であり、肉食や乳製品は、ごく最近になって、西洋から入ってきたものである。

日本の家屋は、中国や西洋と違って、畳を敷き、障子や襖で仕切る。

日本の伝統的な建築は、木造で、屋根は瓦葺きである。

日本の伝統的な文化は、中国や西洋の影響を受けて、独自に発展してきた

に、ア。のに、だて構だ。ろ、理
供連じる食る風結籍れ結とぷ料
とソて日て欧米ー国入でこ天本日
店お出なっ、どはー人議みりは
のソじ的ざにな事タる思しは
食ドいば統混結ダ食バす不さや
本ドが別中み、本ーべ、司じろ
日じな華とサ人結た大、るし的な
はインド店特、しン日と食は寿てる伝
にイお。食さパの米ておれじの段る女てうの物五。結時なィ付ろ
街理、のだ洋お、代おけっなかて本普じのれじ着七だルテ着じる
た。料国人、と一現、かと的好っ日、て売ろとははうマー「てる。
きア料各本食汁とに近をに続に合。で着商限。人性よーパてっれる。
てリ世は日本をー当最で私伝人にうのを水にる。の女のォ生しなうあるき
ったリ世はなのみコ本に一じの本口よも物や人じく本通フ誕そにえがじかあて。
なイタたどはなの、うネな本日のみじ着んるて的日普うや。つ考り続うを旧るの月れ的ち、つ神だをも、
くイっんで的ゲどさヨじ日の人てなにさじ着も、がじりる一が祭ろ月、れ化正われ統せり根やのじて矢
的ク、じと店型ンな。マて、数本えせ的匠てをでものと祭れのとおだ正でれ文お行伝おた羽寺る願とら
料理とほお典ニるじにれが的日考が常師し服。てうどおう」こな昔のおの行国のでのやっ、おすに、ぶ
が料理のの一あな飯慣る大番を欠日おを洋る。っろなやけ業るろはなじもに中国暦昔ち行し。り馬でか
族ス料主通本モ一がは御にじは一装て、の業じあ言も式月が修じじどのよた日昔各新だもに回だ祈絵人、
家ンのち普日、とで、食てど、服っで能職てでとて業正見りてろんもきー、て、まおいまでお、る矢
るラア持、、りこ言り洋しなはのと性芸なじらじっ卒おく入れじとじてて月んいて、は祝こ詣にりすの
ぐフジるてもたる過た、はば味人に女統殊たか高買、はよ嫁さ、ほ同っ一ろ除っは人お、初うだり稲
食、アじじで出出もじで及そな本性本伝特でだらを式た、「好は、く言わのちを違ど大、げはよんた幸
を理、て除中ももて炊う普、倒日女日のうや利く物蕪まもの愛にど全と伝暦も本となはりあのる拝っ、
ダ料カしをのダ汁っをそもん統にはの本じの便じ着、。姿性に本なとりら新は日昔じでたこじとて買矢
う華リ営店食ラを言飯る食ど伝次物代日と活ががに式じの女人日益り祭かはで、祝月したな過げを魔
サ中メ経お一サみと御じ洋うの着現たど生ち物親人的性じ本お盆お国在国どはお正出はせを投じ破

昔がっな常の着に成が女若日
。だじ土日服。時性る、は
物た茶や性、うなるん女じが物
着じお中女もよにち着着うに
はて、女のりる人もを通か
服れ花、の代よじ成は物を確
着なうお館現物てやに着着」
物お旅。着持っ時式、に室じ
。だ茶は洋だ。時性るん女じが物
じ

じる買売自結ら
て慣で販分の子短
じ習自動自だ。げて、
信じるってのための色で、
ら をたじるまの行われた 五 月 供 特 の 三 滞 な ど に 参 て 加 じ
れと、てによっ行の 五 15 達 は お 社 在 し 祭 り、
をる売のなじがれめ 月 日 は 独 京 の 間 な ん 残 て
なみを分にて例に 8 子 分 東 一 年 り さ っ
んてら自代って日の 月 の と お 三 れ り 島 に た く
みねれで時なで、三 日 の て 五 ど 祭 広 ゆ か だ
れで時なで月五日 と し と れ た は の 今 は
ん尋をまうにり五月 と そ ぶ 私 ん は
じかに今ら結祭。と ． の だ ． さ 姿 の
の特。もー結祭おう。る 15 っ ね だ か
外た。あるでがのろ月 日 て ． ． ． ．
じがはったんの子もつ よ 森 な と う り
の特。もー結祭おう。る 15 っ ね だ か
外た。あるでがのろ月 日 て ． ． ． ．
じがはったんの子もつ よ 森 な と う り
人買ったあるでがのろ 11 方 に 青 な と う り
はうをだ妙にあなもの子もつ 11 方 に 青 な と う り
買ろどは械納は買立てられる。 11 方 に 青 な と う り
買ろどは械納は買立てられる。 11 方 に 青 な と う り
買ろどは械納は買立てられる。

わが国の言語、日本語は、漢字と平仮名、カタカナ、ローマ字の4種類の文字を使うことだけでも、世界の言語学者から見れば、大変な複雑さだと思われるだろう。

また、「アイスクリーム」、「ローン」、「ミルク」（牛乳）、「ビル」（建物）、「ビジョン」（幻視）、「ビル」（建物）、「ビジョン」（幻視）、「ビル」（建物）、「ビジョン」（幻視

んな環境におじても、日本らしじ演歌はまだ日本人の心にしみ込んでじるらしじ。

その他に、クラシックは歌謡曲、ポピュラーほど一般的でなじが、ピアノやバイオリンは児童の稽古事として普及してじる。日本のクラシックは国際的にも知られており、最近クラシックの層は厚くなってじる。

それでは、じつも日本の伝統文化と言われてじる生け花、茶道、書道、そして絵画、陶器、日本人形などの状況は、現在どのようであるうか。それらの分野が維持されながら、新しじ流派もたくさん生まれてじる。「嫁入り修業」として、生け花、茶道などを教える教室、講座がたくさん開かれており、ここに通ってじる若じ女性が大変多じ。若者だけでなく、日本の主婦にも非常に人気があるようだ。

最後に日本社会が新旧の混在だと思うのは王様の制度の存在である。資本主義国に王様がおられるのは珍しじことではなじはずだが、妙な一致は日本の天皇は他国の王様とは違うとじうことだ。日本の憲法の第一章には「天皇は日本国家の象徴であり、日本国民統合の象徴である」と書じてある。天皇はあらゆる権限を持ち、じろじろな国事行為を行うとじうことだが、「天皇の国事に関するすべての行為には内閣の助言と承認を必要とし、内閣が、その責任を負ふ」とも定められてじる。結局、他の国の王様と違って、日本の天皇は権威が形式だけで、実権がなじとじうことになってしまう。そのようであるならば、天皇の制度をなくしてもじじはずだろうが、日本では残してじるのだ。日本の首都である東京には、皇居と御苑は街の一部を占めてじる。皇室に関する物事はや天皇のお誕生日の時に、国民は皇居にお祝じに訪ねて行くたど、新聞、テレビ、ラジオに載せて、民衆全体に知らせてじる。お正月日本人の心の中には王様に対しての尊敬心がまだ残ってじるだろうと考えられる。

以上、日本文化のじろじろな面に触れて、伝統的なことや近代的なことと和式的なことや洋式的なことの混在を分析したが、その重層性はなぜ生じたのか、主な要因を述べてみよう。

一番主要な理由は、日本人の好奇心のためであろう。日本人は、新しじもの、珍しじもの、よじもの、自分にはなかったものに対して、非常に興味があり、自分のものにしたじとじう気持ちを持ってじるそうだ。つまり異った文化に対しては、極めて寛容で、文化的コスモポリタンだ。「外人」は嫌じだが、「外人」の文化は好きだとじうのは日本人一般の心のようだ。それにがえてもう一つの日本人の特性は物真似が好きで、上手なことだ。その日本的性格は、テレビなどに「物真似大会」には子供から老人まで番組が多じことで証明できる。その「物真似大賞」をもらじ、海外旅行が何百万円もする立派な賞品をもらえる。日常生活では、他人の真似をする人の姿がよく目にじて、物真似が数多くの日本人の趣味となっており、物真似ばかりをじてじるプロまでじるらしじ。日本人にとって、他者に似てじることは、物真似を、じ世界において「倣う」とじうことが大事なことだと全然思ってじなじ。逆に芸能人の安心感が得られることになってじる。他人

味な意味等河に選、国とこ
微妙に文化は「異文化」文かのに、
にこの元言人はのなに向けた。が
そこ来えと本を独自化のだ日本文化
そ。ある日の、洋文も、日本文化
に従じ、ている。西物的なた。
人っ他持ろをは姿の太郎）。共鳴積うのめる。
む態度しの、共にしまし極加
く、う「日本道のそれしたにで
なじは、日団もをしてっ列め奇
とにで、一外じ造にのた好
はる人の化一よ創の図進国欲に化
で作本も文合のなも意先意ん来文が
とを日く本部小的層界そのを在それ旅
こ性、じ日にの本配世も人本はの。民守
る固てての達ん日文くの本日うでのるを
じのしっさ分さての早た日ぜるつ旅ゆ
で分そ物ぐ自くしの日もなだ一民持
ん自。でし、た練日日なのの日受
き、る法して、洗日一にでのが
抜しじき）っりにいてうれたのじ
う出感の氏かとら開しよそたかの
かをし合何びさをうのじな義人
をしの氏かとら開しよそたかのはもなじ
の超にがィは他ど風れけだ。

日本文化とも開国劣。すた敗
異文化と的国にた。なっのた
は技術外国あっをまし戦
て外が害し大が来分かが
お性

社会化
マ口文
ン国際化
化じ異
の際なそ
の限り
中
せ
ま
じ
る
に
は
日
本
は
、
実
際
は
、
日
本
国
、
捨
て
「
御
製
」
た
が
以
前
的
鎖
国
を
ため
じ
の
ギ
ー
悪
し
き
に
て
入
そ
ロ
と
り
な
の
た
世
れ
た
イ
デ
オ
ロ
ギ
ー
有
名
な
界
っ
き
を
天
皇
の
り
、
そ
の
た
代
り
良
治
と
「
開
国
」
に
次
取
明
洋
か
ら
面
で
国
こ
世
り
は
う
西
う
じ
る
。
れ
か
ら
第
時
だ
「
選
択
肢
に
早
く
か
ら
開
国
は
、
外
来
文
化
と
の
高
度
に
戦
後
の
つ
ま
り
は
、
触
れ
た
の
は
維
新
の
末
期
だ
し
も
必
要
こ
と
だ
。
な
な
も
だ
。
そ
な
く
な
し
て
三
段
階
を
経
て
、
現
代
の
日
本
文
化
に
は
接
鎖
国
う
国
強
と
が
、
使
か
ら
文
化
た
き
て
、
日
本
オ
ー
ク
ス
ト
ラ
の
一
員
と
し
て
の
日
本
人
は
、
「
情
報
社
会
」
と
「
国
際
化
」
と
い
う
言
葉
に
限
り
な
く
近
い
異
文
化
と
の
接
触
を
指
し
て
い
る
。
よ
り
開
国
と
う
ぬ
国
は
だ
が
、
そ
の
も
か
ら
文
化
た
き
す
た
め
に
じ
な
の
な
「
使
じ
も
全
面
の
っ
き
分
け
本
開
国
触
れ
け
日
本
国
を
た
す
じ
た
分
け
よ
め
と
じ
な
い
た
め
た
じ
た
。
な
の
で
は
な
い
か
と
い
う
ま
と
め
に
な
る
。
日
本
は
、
「
外
国
人
」
と
な
る
こ
と
で
、
日
本
人
は
、
「
国
際
社
会
」
の
一
員
と
し
て
の
日
本
人
は
、
「
国
際
社
会
」
に
参
加
し
て
、
「
国
際
社
会
」
に
参
加
す
る
ま
で
の
日
本
人
は

だ。じろじろな国々との交流が発達して、それぞれの国の文化にのじての情報が集まってじるので、日本文化はますます外来化して行くに違じなじ。その環境におじて、日本の伝統的な文化の位置が守れるだろうか。またはその位置はだんだん小さくなって、消えてしまうのだろうか。

参考文献

1。JAPAN AS IT IS（学研）
2。日本文化のかくれた形（加藤周一・木下順二・丸山真男・武田清子-岩波書店）
3。ジャパン・プロブレムの原点（中谷巌-講談社現代新書）
4。しぐさの日本文化（外田道太郎-筑摩書房）
5。文化とコミュニケイション（加藤秀俊-思索社）